

【九州大学大学院芸術工学府 芸術工学専攻
デザイン人間科学コース・デザイン人間科学国際コース】(2021年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

<修士課程 (デザイン人間科学コース)>

芸術工学府芸術工学専攻デザイン人間科学コースは、人間の特性を科学的に探究し、人間にとって最適な環境、物、情報の総合体を提案できる人材を養成するための教育と研究指導を行う。先端のおよび学際的な分野に関する基礎知識を習得させ、その知識を応用した研究を行う機会を提供する。

本プログラムを修了した学生は以下の能力が期待される。

- ・人間に関する最先端の科学的知見を理解し解釈することができる。
- ・人間の特性に基づく最適な環境・製品の提案をすることができる。
- ・統計的・数理的推論に基づいて、情報を分析し、問題解決につなげることができる。
- ・異分野の研究者・技術者と協業し国際的に活躍するためのコミュニケーション能力をもつ。

以上の教育目標を達成した者に、修士 (芸術工学) の学位を授与する。

本コースの修了後は、企業における研究開発、官公庁における行政関連業務で活躍することが想定されている。

<博士後期課程 (デザイン人間科学コース、デザイン人間科学国際コース)>

芸術工学府芸術工学専攻デザイン人間科学コース・デザイン人間科学国際コースは、人間の特性を科学的に探究し、人間にとって最適な環境、物、情報の総合体について世界水準の提案ができる人材を養成するための教育と研究指導を行う。先端のおよび学際的な分野に関する基礎知識を土台として、専門性をより進化させて世界水準の研究を行う機会を提供する。

本プログラムを修了した学生は以下の能力が期待される。

- ・人間に関する最先端の科学的知見を網羅的・体系的に理解し解釈することができる。
- ・人間の特性に基づく最適な環境・製品の提案を多角的・独創的にすることができる。
- ・高度な統計的・数理的推論に基づいて情報を分析し問題解決につなげることができる。
- ・異分野の研究者・技術者と協業し国際的に活躍するための高度なコミュニケーション能力をもつ。
- ・確固たる専門をもち、研究者として自立することができる。
- ・専門分野の問題解決を先導し、指導的役割を担うことができる。

芸術工学分野において本教育目標を達成した者には博士 (芸術工学) を、工学分野において本教育目標を達成した者には博士 (工学) の学位を授与する。

本コースの修了後は、企業における研究開発、大学や研究機関での教育・研究、官公庁における行政関連業務で活躍することが想定されている。

参照基準

<修士課程・博士後期課程>

Subject Benchmark Statement (UK)

- ・Anthropology (2015)

- Psychology (2016)
- Biosciences (2015)
- Computing (2011)
- Mathematics, Statistics and Operational Research (2015)

到達目標

<修士課程 (デザイン人間科学コース)>

A. 主体的な学び・協働

- A-1. 自身の研究分野の課題に主体的に取り込むことができる。
- A-2. 研究グループ内外と交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。
- A-3. 客観的な記述によるコミュニケーションによって、複雑な現象を明確に他者に伝えることができる。

B. 知識・理解

- B-1. 人間の特性に関する研究を科学的な見地から理解し、説明できる。
- B-2-生理人類学. 人間の形態、行動、生理特性に関する最先端の知識について理解し、説明できる。
- B-2-知覚心理学. 人間の知覚システムに関する最先端の知識について理解し、説明できる。
- B-2-生体情報数理学. 計算機科学、統計科学、数理モデリングの最先端の知識について理解し、説明できる。

C. 能力

C-1. (適用・分析)

- C-1-生理人類学. 人工的な環境下における人間の行動を形態的および生理的な面から調べる実験を環境適応能の観点から計画、遂行し、実験から導かれた人間の形態、行動、生理特性データを分析して解釈することができる。
- C-1-知覚心理学. 人間の知覚システムに関する実験を計画、遂行し、実験から導かれた心理学的測定データを分析して解釈することができる。
- C-1-生体情報数理学. 計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、生理・心理学的なデータの解析、問題の定式化を行うことができる。

C-2. (評価・創造)

- C-2-生理人類学. 人間の形態、行動、生理特性に関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法の提案を行うことができる (解決法を提案することができる)。
- C-2-知覚心理学. 人間の知覚システムに関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法の提案を行うことができる (解決法を提案することができる)。
- C-2-生体情報数理学. 計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法の提案を行うことができる (解決法を提案することができる)。

D. 実践

- D-1. 人間科学を含めた自然科学の方法および論理的思考ができる。
- D-2. 研究報告・研究発表を行い、他の研究者と議論を通じた知的交流をすることができる。

<博士後期課程 (デザイン人間科学コース、 デザイン人間科学国際コース)>

A. 主体的な学び・協働

- A-1. 自身の研究分野の課題に主体的に取り込むことができる。また、自ら研究プロジェクトの立案を行うことができる (研究プロジェクトを立案することができる)。

A-2. 研究グループ内外と交流を行い、他者と協働し、リーダーシップを発揮して問題解決にあたることができる。

A-3. 客観的な記述によるコミュニケーションによって、複雑な現象を明確に他者に伝えることができる。また、適切な言葉で幅広い専門分野外の研究者にも伝えることができる。

B. 知識・理解

B-1. 人間の特性に関する研究を科学的な見地から広く深く理解し、説明できる。

B-2-生理人類学. 人間の形態、行動、生理特性に関する最先端および周辺分野の知識について理解し、説明できる。

B-2-知覚心理学. 人間の知覚システムに関する最先端および周辺分野の知識について理解し、説明できる。

B-2-生体情報数理学. 計算機科学、統計科学、数理モデリングの最先端および周辺分野の知識について理解し、説明できる。

C. 能力

C-1. (適用・分析)

C-1-生理人類学. 人工的な環境下における人間の行動を形態的および生理的な面から調べるオリジナルな実験を環境適応能の観点から計画、遂行し、実験から導かれた人間の形態、行動、生理特性データを分析して解釈することができる。

C-1-知覚心理学. 人間の知覚システムに関するオリジナルな実験を計画、遂行し、人間の知覚に関する実験から導かれた心理学的測定データを分析して解釈することができる。

C-1-生体情報数理学. 計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、生理・心理学的なデータの独創的な解析、問題の定式化を行うことができる。

C-2. (評価・創造)

C-2-生理人類学. 人間の形態、行動、生理特性に関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる（最適でオリジナルな解決法を提案することができる）。

C-2-知覚心理学. 人間の知覚システムに関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる（最適でオリジナルな解決法を提案することができる）。

C-3-生体情報数理学. 計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる（最適でオリジナルな解決法を提案することができる）。

D. 実践

D-1. 人間科学を含めた自然科学の方法および論理的思考が高度なレベルでできる。

D-2. 専門分野内における先端的な研究遂行能力を有し、英語で研究報告・研究発表を行うことで他の研究者と議論ができる。また、国際的なチームの一員として、他者と協働して解決法を探ることができる。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

【コースワーク】

<修士課程・博士後期課程>

修士課程の学生は、デザイン人間科学コースを俯瞰する必修の共通科目（デザイン人間科学特論 A・

B、デザイン人間科学特別演習 I・II、インターンシップ、科学英語特別演習）および「生理人類学」

「知覚心理学」「生体情報数理学」の3講座が開講する専門科目を通して、本分野の基礎と専門の双方を学ぶ。また、学生自身の所属する講座と他の講座の科目を同数程度とることを課しており、これを通じて分野の壁を越えて協力する能力も身に付けさせる。デザイン人間科学分野がカバーする諸分野に対応できる学際的な人材の育成を行う。

博士課程の学生は、修士課程で習得した知識技能をもとに専門性を高め、各自の研究プロジェクトを推進する。また修士課程向けに開講されている科目をいくつか習得することを課しており、自身の専門と周辺分野のつながりを確認する機会をもつことによって、学際的な素養を高める。

【研究指導体制】

＜修士課程・博士後期課程＞

以下3つの講座のいずれかの研究室に所属して学位論文作成を行う。

生理人類学講座 人間の形態および生理特性を調べることによって、安全で快適な製品や生活環境を考察するための体系的な教育研究を行う。

知覚心理学講座 人間の知覚システムが製品や生活環境からの情報をどのように受け取り、どのように意味づけているかを考察するための体系的な教育研究を行う。

生体情報数理学講座 人間の生理・心理計測データを解析・処理する数理工学的な基盤に立って、最適な製品や生活環境を設計するための体系的な教育研究を行う。

各講座では国内外での学会発表、海外との共同プロジェクトの推進が活発に行われており、学生も参加することができる。

修士課程では、主指導教員を中心に当該学問分野における実験手法、解析手法、論文作成に関する指導を受ける。修士1年終了時に研究の進捗発表会を行い、専門に近い教員から進捗状況のチェックを受ける。

博士課程の学生は、主指導教員および副指導教員を中心に当該学問分野における実験手法、解析手法、論文作成に関する指導を受け、自律的に研究遂行できる能力を高める。博士1年、2年修了時に研究の進捗発表会を行い、進捗状況のチェックおよび専門を広げるためのアドバイスをコース内の複数教員より受ける。

以上のコースワークと研究指導を通して、デザイン人間科学分野の幅広い知識を習得させ、人間に関係するサイエンスの専門家を養成する。

【学位論文審査体制】

＜修士課程（デザイン人間科学コース）＞

学位論文審査基準としては、専門分野の知識を備えているか、学術論文としての形式が整っているか、論理的な展開がなされているか、当該学問分野における新規性を有しているかをもとに修士論文の可否を決定する。

＜博士後期課程（デザイン人間科学コース、デザイン人間科学国際コース）＞

学位論文審査基準として専門分野の先端的な知識を備えているか、学術論文としての形式が整っているか、論理的な展開がなされているか、新規性・独創性のある研究遂行を通じた当該学問分野への貢献が十分か、さらに外部の専門家からの評価等を参考に博士論文の可否を決定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み(内部質保証)】

＜修士課程・博士後期課程＞

学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかを学務専門委員会の下に設置

するカリキュラム検討WGにおいて検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

学修目標の達成度の評価は、履修科目の成績・単位認定および、研究活動の結果として提出された修士論文および博士論文の審査の結果に基づいて行う。

3) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

求める学生像

<修士課程（デザイン人間科学コース）>

人間の特性を科学的に探究することに強い意欲を持ち、人間にとって最適な環境、物、情報を提案する諸分野での活躍を目指す学生や、デザイン人間科学分野の研究者を目指す学生を求める。以下の態度・資質を有していることを希望する。

- a) 学部において芸術工学およびその他の分野において、基盤となる科目を十分に習得していることを希望する。
- b) 論文読解・執筆に求められる語学力を持ち合わせていることを希望する。
- c) 専門分野の知識や実験結果に基づいて論理的な推論を行い、その自分の考えを他者に伝えることができることを希望する。

<博士後期課程（デザイン人間科学コース、 デザイン人間科学国際コース）>

修士課程入学希望者に求める上記に加え以下の態度・資質を持ち合わせる学生を積極的に受け入れる。

- d) 専門分野における過去から最近までの研究成果に関して幅広い知識を有すること。
- e) 隣接分野についての学際的な基礎知識を有すること。
- f) 研究において収集した知見をまとめて論理的な文章にすることができること。発信の際に求められる語学力を有していること。
- g) 研究テーマの追求に強い意欲を持ち、自律的に研究活動を推進することができること。

入学者選抜方法との関係

<修士課程（デザイン人間科学コース）>

一般入試、外国人留学生入試、社会人入試を実施する。

- ・一般選抜および外国人入試では、成績証明書や研究計画書等の提出書類に加え、外国語試験、専門試験、口頭試験を課す。(a) にかかわる資質や態度を見るため、専門試験に加え口頭試験を、(b) にかかわる資質や態度を見るため外国語試験を、(c) に関わる資質を見るため、口頭試験を実施する。
- ・社会人入学試験では、口頭試験により(a) (c) の資質を、外部英語試験により(b) の資質を見ることで合否判定を行う。

<博士後期課程（デザイン人間科学コース、 デザイン人間科学国際コース）>

博士後期課程の選抜では、修士論文および研究計画書等の提出書類に基づく口述試験を行い、上記(a)～(g)の資質・態度を身につけているかどうかを検討し、合否判定を行う。

芸術工学府芸術工学専攻 デザイン人間科学コース カリキュラムマップ

科目区分

凡例 科目区分

(再掲は薄色表示)

(再掲は薄色表示)

専攻共通科目	生理人類学講座 科目	知覚心理学講座 科目	生体情報数理学 講座科目	分野専門科目
専攻共通科目	生理人類学講座 科目	知覚心理学講座 科目	生体情報数理学 講座科目	分野専門科目

区分	領域	学修目標		M1				M2				D1-3					
		修士課程	博士後期課程 (デザイン人間科学コース・デザイン人間科学国際コース)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
実践	共通	D-2. 研究報告・研究発表を行い、他の研究者と議論を通じた知的交流をすることができる。	D-2. 専門分野における先端的な研究遂行能力を有し、英語で研究報告・研究発表を行うことで他の研究者と議論ができる。また、国際的なチームの一員として、他者と協働して解決法を探ることができる。			デザイン人間科学特別演習I				デザイン人間科学特別演習II				デザイン人間科学特別演習III			
		D-1. 人間科学を含めた自然科学の方法および論理的思考法ができる。	D-1. 人間科学を含めた自然科学の方法および論理的思考法が高度なレベルでできる。											デザイン人間科学プロジェクト研究I	デザイン人間科学プロジェクト研究II		
評価・創造	生理人類学	C-2-生理人類学。人間の形態、行動、生理特性に関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法の提案を行うことができる。	C-2-生理人類学。人間の形態、行動、生理特性に関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる。	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論		
				生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論
					視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論
					聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論
	知覚心理学	C-2-知覚心理学。人間の知覚システムに関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法の提案を行うことができる。	C-2-知覚心理学。人間の知覚システムに関する知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる。	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習		
				音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論		
				視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論		
				デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論		
	生体情報数理学	C-2-生体情報数理学。計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる。	C-2-生体情報数理学。計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、人間の環境、物、情報に関する問題について最適な解決法のオリジナルな提案を行うことができる。	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論		
				機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論		
				生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論			
				情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論			
適用・分析	生理人類学	C-1-生理人類学。人工的な環境下における人間の行動を形態的および生理的な面から調べる実験を環境適応能の観点から計画、遂行し、実験から導かれた人間の形態、行動、生理特性データを分析して解釈することができる。	C-1-生理人類学。人工的な環境下における人間の行動を形態的および生理的な面から調べるオリジナルな実験を環境適応能の観点から計画、遂行し、実験から導かれた心理学的測定データを分析して解釈することができる。	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論		
				生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論		
					視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		
					聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		
	知覚心理学	C-1-知覚心理学。人間の知覚システムに関する実験を計画、遂行し、実験から導かれた心理学的測定データを分析して解釈することができる。	C-1-知覚心理学。人間の知覚システムに関するオリジナルな実験を計画、遂行し、実験から導かれた心理学的測定データを分析して解釈することができる。	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習		
				音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論		
				視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論		
				デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論		
	生体情報数理学	C-1-生体情報数理学。計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、生理・心理学的なデータの解析、問題の定式化を行うことができる。	C-1-生体情報数理学。計算機科学、統計科学、数理モデリングの知見を利用して、生理・心理学的なデータの解析、問題の定式化を行うことができる。	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論		
				機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論		
				生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論			
				情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論			
知識・理解	生理人類学	B-2-生理人類学。人間の形態、行動、生理特性に関する最先端の知識について理解し、説明できる。	B-2-生理人類学。人間の形態、行動、生理特性に関する最先端および周辺分野の知識について理解し、説明できる。	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論	感性科学特論	環境人間工学特論		
				生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論	生活機能支援科学特論	福祉人間工学特論		
					視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		視覚生理学特論		
					聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		聴覚生理学特論		
	知覚心理学	B-2-知覚心理学。人間の知覚システムに関する最先端の知識について理解し、説明できる。	B-2-知覚心理学。人間の知覚システムに関する最先端および周辺分野の知識について理解し、説明できる。	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習	視覚心理学特論	心理学的思考法特別演習		
				音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論	音声情報学特論	聴覚心理学特論		
				視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論	視覚環境理解システム設計特論	時間知覚特論		
				デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論	デザイン心理評価法	色彩科学特論		
	生体情報数理学	B-2-生体情報数理学。計算機科学、統計科学、数理モデリングの最先端の知識について理解し、説明できる。	B-2-生体情報数理学。計算機科学、統計科学、数理モデリングの最先端および周辺分野の知識について理解し、説明できる。	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論	知能情報学特論	ヒューマンインターフェース特論		
				機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論	機械学習特論	バーチャルリアリティ特論		
				生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論		生物モデリング特論			
				情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論		情報統計学特論			
共通	B-1. 人間の特性に関する研究を科学的な見地から理解し、説明できる。	B-1. 人間の特性に関する研究を科学的な見地から広く深く理解し、説明できる。	デザイン人間科学特論A	デザイン人間科学特論B	デザイン人間科学特論A	デザイン人間科学特論B	デザイン人間科学特論A	デザイン人間科学特論B	デザイン人間科学特論A	デザイン人間科学特論B	デザイン人間科学特論A	デザイン人間科学特論B	デザイン人間科学特論A	デザイン人間科学特論B			
主体的な学び・協働	共通	A-3. 客観的な記述によるコミュニケーションによって、複雑な現象を明確に他者に伝えることができる。	A-3. 客観的な記述によるコミュニケーションによって、複雑な現象を明確に他者に伝えることができる。また、適切な言葉で幅広い専門分野外の研究者にも伝えることができる。	科学英語特別演習		科学英語特別演習		科学英語特別演習		科学英語特別演習		科学英語特別演習		科学英語特別演習			
		A-2. 研究グループ内外と交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることことができる。	A-2. 研究グループ内外と交流を行い、他者と協働し、リーダーシップを発揮して問題解決にあたることことができる。	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ	インターンシップ				
		A-1. 自身の研究分野の課題に主体的に取り込むことことができる。	A-1. 自身の研究分野の課題に主体的に取り込むことことができる。また、自ら研究プロジェクトの立案を行うことことができる。	デザイン人間科学特別演習I		デザイン人間科学特別演習II		デザイン人間科学特別演習III		デザイン人間科学特別演習III		デザイン人間科学特別演習III					
区分	領域	修士課程	博士後期課程 (デザイン人間科学コース・デザイン人間科学国際コース)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
学修目標				M1				M2				D1-3					
アセスメント・プラン				履修科目の成績・単位認定および、修士論文結果に基づいて行う。								履修科目の成績・単位認定および、博士論文結果に基づいて行う。					